

# 事業報告

講座名	環境学習講座「竜王山の自然観察会」		
日時	平成29年4月23日（日）9：30～15：30		
場所	きらら交流館、竜王山公園、本山岬公園	参加者数	49人

## 1 スケジュール

- 9：30～ 9：35 開会あいさつ・オリエンテーション  
9：45～12：10 竜王山公園で山野草の観察等  
＜講師＞ 本山会 嶋田紀和氏、柴田満幸氏、松永聡氏  
12：10～13：00 昼食  
13：00～14：40 本山岬で野外観察会  
14：50～15：25 講義「竜王山の自然保護について」（きらら交流館）  
＜講師＞ 本山会 嶋田紀和氏  
15：25～15：30 閉会あいさつ・解散

## 2 活動内容

午前中は、きらら交流館でオリエンテーションを行った後、竜王山臨時駐車場に移動し、山野草の観察会を行った。

午後からは、本山岬に移動し、「くぐり岩」等を観察した後、再びきらら交流館に移動して、本山会の嶋田紀和氏による講義「竜王山の自然保護について」を行った。

### 【野外観察「竜王山公園の山野草の観察等」】

講師：嶋田紀和氏、柴田満幸氏、松永聡氏（本山会）

自家用車で、竜王山公園臨時駐車場へ移動し、3班に分かれて山野草の観察会を行った。各講師の説明を聞きながら、まず臨時駐車場周辺で山野草を観察し、その後竜王山山頂まで行くコースを歩きながら観察した。

竜王山は、地元住民等の手で管理されている公園で、県内では秋吉台に次ぐ豊かな自然を残しており、①海岸性の植物と山地性の植物が混在していること、②群落を形成する山野草が多いことが、その大きな特徴である。



◎観察した山野草は次のとおりである。

- ・ウラシマソウ サトイモ科。春、仏炎苞の中から長いひげを1本伸ばす。ひげは花軸が伸びたもので、これを浦島太郎が手にした釣糸に見立てて



名がつけられた。雌雄異株。県の絶滅危惧 1A 類。

・ウマノアシガタ

キンポウゲ科。根生葉の形が、馬の足跡のようなので、この名がついたといわれるが、あまり似ていない。竜王山には群生地がある。



・コバノタツナミ

シソ科。花が片側を向いて咲く様子を、寄せる波に見立てて名がついた。竜王山にはタツナミソウのうちコバノタツナミが生息しており群生地がある。



・キラソウ

シソ科。厚い葉を広げ、地に張り付くように生えている。昔から民間薬として使われたため、ジゴクノカマノフタとも呼ばれた。



・モモイロキラソウ

シソ科。花冠が淡紅色。葉がやや赤味を帯びることがあり、花の色以外はキラソウと差がない。竜王山では以前は生息してなかった。



・ノアザミ

キク科。春に咲くアザミ。直立した茎の先端に紅紫色の花を上向きにつける。葉のふちに鋭いとげがある。花期にも根生葉が残っている。



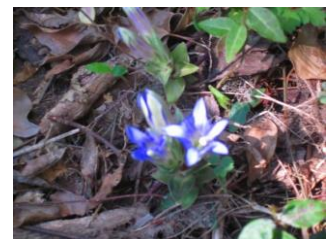
・ヒトリシズカ

センリョウ科。茎の先にある4枚の葉が開くと同時に、1本の花穂に白い糸状の花をつける。静御前の舞い姿に見立てて名がついた。竜王山では株が年々増えており、群生地がある。



・フデリンドウ

リンドウ科。上向きに咲く花の姿を筆に見立てて名がついた。花は日がさす間だけ咲く。竜王山には群生地がある。



この時期以外に咲く植物についても説明があり、ツルニンジンの群生地のもみじ谷では、本山会が4年がかりで蔓を除去し、竹竿を立てた結果、現在では600株のツルニンジンが群生しており、毎年9月の中旬から下旬が花の見頃になる。

また、竜王山では3種類のアザミが見られるが、この時期に咲くのはノアザミとヨシノアザミで、他は10月に花が咲くモリアザミである。モリアザミは2000年より子ども達がロープを張って群生地を保護している。

竜王山の自生種（サケバヒヨドリ、ヒヨドリバナ、サワヒヨドリ）を花壇等に植栽し、「アサギマダラおいでませ作戦」を行っており、10月には数多くのアサギマダラを見ることができるとの説明もあった。

#### ◇他に観察できた草花

セイヨウタンポポ、シロバナタンポポ、ヒメウズ、カタバミ、ウバユリ、ツワブキ、、オニタビラコ、ヘビイチゴ、ムラサキケマン、ヤエムグラ、スイバ、ハナイバナ、カラスノエンドウ、オオイヌノフグリ、キュウリグサ、マンテマ、ブタナ、シマカンギク、ホタルカズラ、アマナ、ホタルカズラ、ムラサキカタバミ

#### 【野外観察「本山岬の観察等」】

講師：嶋田紀和氏、柴田満幸氏、松永聡氏（本山会）

本山岬の海岸線は砂岩であるため、波による侵食を受けやすく、年々岩の形が変化し、その結果、ゴトク岩のような奇岩も多く見られるようになったこと。

また、周防灘の平均水深は20mと浅く、浅瀬が多い瀬戸内海にある26箇所の岬の中でも、奇岩がある本山岬は貴重であること。

岸边には、石炭粒が打ち上げられており、参加者の中には収集される方も見られた。

海岸には水没しない大きな岩があり、岩肌にイワタイゲキという貴重な植物が自生している。海岸では、ムラサキカタバミ、ハマダイコン、ハマエンドウ、ハマゴウ、ハマナデシコ等も観察された。



#### 【講座「竜王山の自然保護について」】

講師：嶋田紀和氏（本山会）

PWPを使用して、竜王山の自然環境などについて説明があった。

- ・ 竜王山周辺はかつては1.5Km幅の細長い半島であったことが古地図等を通じて知ることができ、山陽小野田市はその岸を干拓することで発展した町である。
- ・ 昔は竜王山がどこからでもよく見え、航行する船の目印とされ、烽火の山として活用された。
- ・ 竜王山の地質は緑色片岩であり、緑色片岩が風化することで赤土に変化した。この赤土は焼き物に適しており、良質の松が採れたことや海路での輸送も可能であったこと

もあり、6世紀の終わりごろ山口県で初の須恵器の生産地となった。

- ・遠浅の海は非常に豊穡で、以前はアサリがよくとれたが、最近は劇的に減少している。イイダコもよくとれ、今でも1400年前に焼かれた須恵器の蛸壺が海岸に打ち上げられている。
- ・竜王山は日本でも有数のヒメボタルの自生地である。
- ・焼野海岸の夕日は日本の夕日百選にも選ばれるなど、かくれた穴場であるので、もっと脚光を浴びてもよい場所である。

### 3 まとめ・感想

昨年に引き続き春の観察会を行った。64人の参加申込者があり、58人が参加予定であったが当日は49人の参加となった。本山会から講師3人を出していただき、3班集体での観察会を実施することができた。

本山岬のくぐり岩などの観察を可能にするために、干潮時間を考慮して、午前中に竜王山の観察会を行い、午後、本山岬の観察を行った。

今回初めて竜王山の観察会に参加した方が19人おられたが、いずれの方々も講師の方の説明がとてもわかり易く親しみやすいと好感を持たれていた。参加者の中には、今までは植物の名前がほとんどわからなかったが、今日のように名前や詳細を知ると、植物の見方が変わり、植物に親しみがもてるようになれたことがこんなにもうれしいことなのかと、感動されていた方もおられた。